

めでいかすとり
Médicastre



「 秋晴れ・下池・高館山 」

観 楓 会

日時：令和元年10月31日(木) 19：00～
場所：東京第一ホテル鶴岡

秋の気配が色濃くなる頃、鶴岡地区医師会恒例の観楓会が開催されました。

保険衛生福祉担当の鈴木聡理事の司会進行のもと、土田兼史会長の挨拶に続き、来賓の山形県医師会会長の中目千之様、酒田地区医師会十全堂会長の佐藤顕様よりご挨拶をいただきました。

続いて、この度めでたく米寿を迎えられた鈴木伸男先生、喜寿を迎えられた深瀬眞之先生に、土田会長より賀詞、記念品の贈呈がありました。また、米寿の後藤興治先生、喜寿の目々沢秀俊先生、奥山ルミ子先生は残念ながら欠席されご紹介のみとなりました。更に米寿の鈴木伸男先生には中目県医師会長より賀詞、記念品の贈呈も行われました。

その後、鈴木伸男先生、深瀬眞之先生よりご挨拶をいただき、現在も現役でご活躍されている先生方のお話から、楽しみを見つけ、前向きに、また信頼され人のために役に立つことが人生の原動力であることを感じました。

次に、新入会員の鶴岡市立荘内病院参与の蘆野吉和先生のご紹介と蘆野先生のご挨拶、欠席された鶴岡協立リハビリテーション病院の大長省博先生のご紹介がありました。

引き続き、議長の堀内隆三先生のご乾杯の発声により、和やかに祝宴が始まり、会場には賑やかな先生方の笑い声が広がりました。

今年は来賓7名、会員35名、職員17名、総勢59名の出席者で、観楓会の目的である親睦を深める良い機会となりました。宴もたけなわの中、来年も更に多くの会員の先生方のご参加を祈念し、福原晶子副会長の挨拶で閉会となりました。

この日、会が始まる頃の南西の空には、三日月と月に近づいた木星が、ひとつの絵のように寄り添い、とても美しくロマンチックに輝いていました。

荘内地区健康管理センター 渡部 恵美



米 寿



喜 寿



新入会員



鈴木伸男 先生



深瀬眞之 先生



蘆野吉和 先生

米寿の賀詞を拝受して

鈴木 伸男

10月31日の観楓会で、県医師会長の中目先生と当地区医師会長の土田先生から米寿の賀詞と記念品を賜り、またご参席の皆様よりお祝いの言葉を頂戴して光栄に思っているところであります。ありがとうございました。

米寿は数えて88歳ということですが、現在の日本人の男性の平均寿命が81歳であることからすれば長寿と言えるかどうか疑問です。しかし健康寿命の平均が75歳であることを考えると、元気で酒飲みもできるということをまずは慶ぶべきなのでしょう。

さて、「健康」には心身両面があらうかと思えます。身の方は、若い頃から定期的に健康診断を受けて高血圧などの異常が見つければ服薬するなどして対処してきましたし、また3年前に胃がんが発見されましたが、幸い早期がんで内視鏡的に切除してもらいました。

一方、心の方は、当医師会に勤務させていただいたことが大きく役立っていると思っています。私は1998年に65歳で当医師会に勤務して、主として健康診断業務に従事させていただきましたが、日々、年齢的には私からみれば子供あるいは孫みたいな職員の皆さんを仲間と思って、仕事をし、また飲み会などもご一緒させていただいて楽しみました。言うならば昨年3月に引退するまでの20年間、精神的には齢をとらずに過ごしたと申し上げても過言ではありません。今も月に3～4回ドックの手伝いに行っていますが、職員の皆さんとの再会を楽しんでいます。

なお現在まで特に健康を意識したわけではありませんが、結果的にプラスになっていると思われることを挙げてみますと、①豆腐は大好物で365日、湯豆腐あるいは冷奴で食べている。②晩酌で夏はビール、夏以外は熱燗の酒を適量飲んでいるが、「酒に飲まれなければ百薬の長」になっていると思う。③個人的に外で飲むことはめっきり減ったが、飲み会には積極的に出席しているので「ひきこもり」の防止につながっていると思う。④新聞などの不明の語句は辞書で調べ、短歌を続け、クイズやパズルに挑戦（前に日本医事新報や朝日新聞のクロスワードに当て賞金をもらったことがあった）していることは認知症の予防に有効であると思う、などなどです。

ところで「人生百年時代」が到来しようとしている昨今、88歳はまだまだ若僧かとも思いますが、今後とも健康に留意しながら快適な日々を過ごしたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。



鶴岡地区医師会勉強会

日時：令和元年 10 月 11 日 (金) 19:00~
場所：鶴岡地区医師会館 3 階講堂

『新しいがん標的放射線治療、BNCTの可能性』

脳神経疾患研究所附属 南東北BNCT研究センター 診療所長
廣瀬 勝己 先生

ホウ素中性子捕捉療法 (Boron neutron capture therapy, BNCT) は、熱中性子がホウ素原子¹⁰Bに捕捉されることによって核変換反応が生じ、9 μ mおよび4 μ mの飛程で放出される α 粒子やリチウム反跳原子核が腫瘍の細胞核中のDNAを損傷させ死に至らしめる。これらの飛程は腫瘍細胞1個のサイズとほぼ同等であり、ホウ素が腫瘍に選択的に取り込まれさえすれば、浸潤傾向の強い腫瘍でさえ周囲に隣接する正常細胞への傷害を最小限に抑えながら腫瘍細胞選択的に粒子線治療を行うことが可能となる。

BNCTの臨床研究はこれまで中性子の発生源である研究用原子炉を中心に進められてきた。治療成績としては、膠芽腫未治療症例を対象にしたBNCTと外照射を併用したスタディにおいて、生存期間中央値は25.7ヵ月、2年生存率は53.3%であったと報告されており、現在の標準治療であるStupp regimen (生存期間中央値14.6ヵ月、2年生存率26.5%)を大きく上回っている。一方、頭頸部癌に対するBNCTの臨床成績としては、主要な文献において奏効率71–90%、2年無増悪生存率20%、2年生存率30–47%と良好な結果が示されており、国際的ながん診療のガイドラインであるNCCNガイドライン上でも特記事項としてBNCTの可能性について取り上げられている程である。

しかし、研究用原子炉の稼働には利用時間制約や社会的受け入れの問題などがあり、十分な臨床展開は困難である。そのため原子炉を利用しないで中性子を発生させる加速器型中性子源の世界的な開発競争が進みつつある。本邦においては2009年1月に京都大学と住友重機械工業の共同研究開発により、30MeVのサイクロトロンとベリリウムターゲットとで構成された

世界初の中性子発生装置c-BENSが開発され、2012年より臨床試験がスタートした。2014年には有床病院併設型として当院に導入され、遂に医療としての展開を目前に控えた状態にある。

現在、当院では住友重機械工業製BNCT30およびステラファーマ社のホウ素製剤¹⁰B-boronophenylalanine (¹⁰B-BPA, SPM-011)を用いた治験が、2015年12月から再発膠芽腫に対して、2016年7月から再発/局所進行頭頸部癌に対して実施されている。膠芽腫に関してはすでに予定患者数の24名が登録され治療が実施された。1年生存率をプライマリエンドポイントとしているが、最終患者の経過観察期間はすでに1年を超え、結果の発表を待つ状況である。また再発/局所進行頭頸部癌についてはすべての患者フォローアップ期間を終了し、2019年のASCOにおいてその結果が発表された。プラチナ製剤不応性再発頭頸部扁平上皮癌8例、切除不能再発/局所進行頭頸部非扁平上皮癌13例が登録され、プライマリエンドポイントであるBNCT後90日の奏効率は、全症例で71.4%、うちCR/PRは扁平上皮癌で50%/25%、非扁平上皮癌では7.7%/61.5%と非常に良好な結果であった。この結果を受け、現在PMDAによる薬事・医療機器承認の審査が順調に進められており、2020年度中には治療が開始される予定である。

今後、本治療を広く普及させるためには体幹部の腫瘍に対する適応拡大への取り組みが不可欠である。いまだに明らかになっていない体幹部臓器のBNCTの生物効果の解明と、深部の腫瘍に対する新たな治療技術開発が進められることで、BNCTの体幹部腫瘍を含めた適応拡大はいずれ実現するものと期待される。

第11回「鶴岡天腎祭」

鶴岡市立荘内病院

看護師 西田 千佳

日時：令和元年10月20日(日) 14：00～

場所：出羽庄内国際村

令和初の天腎祭は、11回目を迎え「腎臓にはやさしく減塩、脳にはきびしくトレーニング～みんなではじめる認知症予防～」と題し、10月20日に出羽庄内国際村にて開催されました。

初めに、発案者でいらっしゃる新潟大学大学院 医歯学総合研究科 腎医学医療センター教授 丸山弘樹先生に開会のあいさつをいただきました。

続いて、鶴岡市立荘内病院内科 安宅謙先生より「腎臓と仲良く永くおつき合い」と題し、腎臓の働きや病気、治療についてご講演いただき、血圧測定や健康診断から早めの医療機関の受診と、生活習慣を工夫していくことの大切さを実感することができました。

宮原病院管理栄養士 奥泉洋子先生からは「はじめよう！減塩ライフ」と題し、すぐにでも実践できる減塩の方法を9か条で教えていただき、また1回の食事をどのように変えとどのくらい減塩できるかなど具体的に例を挙げわかりやすくご講演いただきました。

鶴岡市立荘内病院神経内科 丸谷宏先生には「生活習慣病と認知症」と題し、認知症のこと、鶴岡市の高齢者の現状や脳血管性病変があると認知症を発症しやすく、脳梗塞を予防する生活習慣病対策が重要であること、認知症予防についてご講演していただきました。現在鶴岡市でも開催している認知症カフェ、認知症を理解す

る教室についても紹介していただきました。

バイタルネット鶴岡支店長 吉田隆先生からは「笑って楽しく脳を活性化！シナプソロジー®を体験してみよう」と題し、シナプソロジーとは？から始まり、効果についてご講演いただき、その後参加者全員で体験させていただきました。演題のごとく体験中会場内には笑顔と笑い声があふれていました。

お忙しい中講演を快く引き受けていただいた4人の先生方、参加していただいた市民のみなさま、運営にご協力いただいたスタッフのみなさまに心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

今回市民の方々66人の参加があり、そのうち半数の方が初めての参加でした。医療機関にて天腎祭を知った方が最も多く、参加された方からは、「生活習慣病を意識して生活していきます。」「減塩に気を付けようと思った。」「色々先生の話がきけて良かった。」「親の認知症が進み、対応に悩んでいたのが参考になった。」「シナプソロジーは楽しい。気分が明るくなった。」など多くの感想が聞かれました。

生活習慣病予防が叫ばれている今、少しでも市民のみなさまのお役に立てるような天腎祭を今後も企画、開催できるよう取り組んでいきたいと思ひます。



令和元年度 鶴岡地区医師会釣り大会の結果

釣り同好会会長 齋藤 高志

日時：令和元年10月26日(土) 12：00～27日(日) 12：00
場所：日本海一円

令和になって初めての釣り大会となりました。事故なく無事に終わることができて、たいへんよかったです。ただ天候は悪く磯に立てないほど波が高い状況で、参加者は悪戦苦闘だったようです。そんな中参加した釣女達はアジを約60匹も釣りあげていて、その意欲に脱帽いたしました。また初参加の北楯優隆先生はいきなり大物賞をゲット、立派なカレイを見せていただきました。今回参加者は少なかったのですが、和気あいあいとした雰囲気です。これからもお一層参加しやすく、楽しめる釣り大会にしていきたいと思っています。一度参加してみてください。その面白さ、病みつきになります。多くの参加をお待ちしています。

それでは、結果を発表します。(敬称略)

優 勝	御橋 慶治	大物賞	北楯 優隆 (カレイ33cm)
準優勝	中村 美仁	小物賞	菅原 萌 (アジ46匹)
第三位	石塚 満	五目賞	中村 美仁 (4種)
ラッキーセブン賞	北楯 優隆		



令和元年度医師会釣り大会に参加して

御橋 慶治

昨年は土砂降りと寒さで、ビギナーの参加者にとっては少し厳しい状況でしたが、今年は曇ってはいましたが、時折差す日差しは暖かく私たち職員グループが行った酒田港は穏やかで、水は澄んでいて見る限り海面から海底まで小アジ一色の状況でした。(外海は大波で荒れておりとても岩場には立てないようでした)個人的には、篠子鯛を釣りたいと臨んだので少し残念でしたが、一緒に行った7人全員がポーズでなく、楽しい釣りができました。



特に、女子2名には、総務でも面倒見では1,2と言われているI君が、餌付けから魚外しまで

一手にサポートをしてくれ、終わってみればなんと二人とも50匹近いアジを釣っていました。また、途中ではI君の「あっ！おっきい！……だみや！……ほれっにげらいだぁ～！！！」なんとも賑わしい声が響き渡り、他の男子たちは苦笑しながら糸を垂れていました。

ほんと、当日はこの海には小アジしかいないのかとあきらめていた時、初めて参加された北楯先生が終了間際に釣られた「真ガレイ」は大物（33センチ）で身も厚く、大会に花を添えてくれた一枚でした。（女子は「こんなのも釣れるんだ！」と感動していました）



釣り大会の点数は昔から「平物」が高く、たまたま少しの篠子鯛を釣った私が優勝させていただきましたが、懇親会で、近年は釣り方、魚種も随分変わってきたので、来年からは時代に合った採点にしたらどうか、という意見が出され検討することになりました。

また、賞品についてはとても好評でした。来年も考えて準備しますので、ベテランの方もビギナーの方からも大勢参加していただき、もっと楽しく大会を盛り上げたいと思いますので、ぜひよろしく願います。（竿など道具はなくても準備しますから大丈夫です）

最後になりましたが、優勝させていただき感謝いたします。

準優勝&五目賞をいただきました！

中村 美仁

10月27日医師会釣り大会に初めて参加させていただきました。

私は年に1、2回、サビキでアジ釣りをする程度なので、サビキ禁止のこの大会では釣れるか不安でした。しかし、釣り場に着いて釣り始めるとほどなく20センチ近くあるサバやアジが皆にかかり、幸先のよいスタートとなりました。その後も次々と豆アジが釣れ、アジ狙いの私はとても満足だったのですが、大会の採点方法ではアジの点数は2点。近くで局長が20点の篠小鯛を釣り上げる様子を見てみると、私ももっと点数の高い魚を狙おうと欲が出てきました。篠小鯛を狙って防波堤のへりに竿を出してみましたが、釣れるのはアジばかりでなかなか篠小鯛は釣れません。何度かアジとは違うアタリがあるのですが、合わせができず釣り上げる前に逃がしてしまいました。タイムアップの時間が迫り、諦めて片付け始めましたが、まだ餌がついていたので何気なく海に糸を垂らしたら、今までにない引きがありました。竿を上げてみたら篠小鯛がかかっており、何度狙っても釣れなかったのに……と複雑な気持ちでしたが、何はともあれ念願の20点をゲットし、釣りは終了しました。その篠小鯛のおかげで準優勝をいただくことができたうえ、魚種も局長と並びジャンケンの結果五目賞もいただき、とても楽しい1日でした。最後に会長をはじめ、準備をしていただいた職員の皆様ありがとうございました。



「かっとなせ！南庄内の医療人！！」 第一回南庄内医療人野球大会開催される

鶴岡市立荘内病院 総務課 鎌田 貢輝

日時：令和元年 9 月 4 日(水) 19:00～

場所：鶴岡ドリームスタジアム

令和元年 9 月、日本中がラグビーワールドカップの開催を間近に控えて盛り上がりを見せるなか、ここ南庄内には一足早くスポーツの秋が訪れていた。

「南庄内医療人野球大会」。荘内病院鈴木院長の発案で、南庄内地域の病院職員が総勢 40 数名集まり、野球大会が行われたのである。荘内病院では昨年まで、製薬会社 MR と毎年野球の対抗試合を行っていたが、今年からは趣向を変え、地域の病院職員と野球を通して親睦を深めるねらいで、野球大会を開催することになった。

準備の段階で、どれだけの参加者が集まるか不安であった。少なすぎたら試合にならないし、多すぎればベンチに入りきれない。初の試みであり、予想もつかない。結果的には杞憂に終わりホッとしている。

さて、野球大会当日は鶴岡ドリームスタジアムに荘内病院から 20 数名、協立病院から 9 名、こころの医療センターから 4 名、協立リハ病院から 6 名、湯田川リハ病院から 6 名の野球を愛する職員が集結。荘内病院チームと他 4 病院合同チームとの対抗戦とし、19 時、照明点灯後プレイボールとなった。私にとっては「はじめまして！」の方ばかりであったが、さすがチームで働く医療人。すぐに打ち解けあい、打順もポジションもすんなりと決まった。

試合が始まると意外と言っても失礼か、締まった試合展開をみせ両チームともなかなか点



が入らない緊迫した試合となった。個人的には荘内病院の臨床研修医である佐々木投手の剛速球と、協立リハ病院の茂木院長の豪快なスイングが記憶に残っている。結果は、それまで眠っていた荘内病院チームの打棒が最終回に爆発。外科の坂本先生父子の活躍もあり、7 対 5 の僅差で荘内病院チームが勝利を収めた。

試合終了後は居酒屋で懇親会を開催し、こちらも多くの方々からご参加いただいた。試合終了後に駆けつけていただいた湯田川リハ病院の武田院長の乾杯のあいさつで始まり、病院・職種垣根を越えて親睦を深めあった。「最高に楽しかった」「来年も是非やりたい」という声があちらこちらから聞こえてきたことは幹事冥利に尽きる。

私は、今回の野球大会を通して多くの方々と関わる事ができた。地域医療を支える仲間として、南庄内地域の医療人の益々の活躍を願うばかりである。「かっとなせ！南庄内の医療人！！」。

新入会員紹介

～令和元年 9 月 1 日入会～



氏名：大長省博
 生年月日：昭和 36 年 6 月 13 日
 生まれた所・育った所：栃木県佐野市
 勤務先・診療科目：鶴岡協立リハビリテーション病院・リハビリテーション科
 出身校：佐賀医科大学
 趣味・特技：読書、サッカー観戦
 鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：新参者ですがよろしくお願ひします。

～令和元年 10 月 1 日入会～



氏名：蘆野吉和
 生年月日：昭和 27 年 1 月 9 日
 生まれた所・育った所：鶴岡市
 勤務先・診療科目：鶴岡市立荘内病院（参与）・外科
 出身校：鶴岡南高校、東北大学医学部
 趣味・特技：スキー、ガーデニング
 鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：緩和ケアおよび在宅医療さらに地域包括ケアシステムの体制構築のために活動します。

医師会ニューフェイス ～令和元年 11 月 1 日採用～



氏名：土肥裕子
 所属：湯田川温泉リハビリテーション病院 看護部看護課第 1 病棟 看護師
 趣味・特技：娘の成長を見守ることが趣味です。
 ひとこと：頑張ります。よろしくお願ひします。

表 紙

「秋晴れ・下池・高館山」

佐藤 洋介

景色がキレイだなと感じる事が年を重ねるごとに増えている気がします。
特に身近で当たり前だった風景ほど、最近その美しさに気づくことが多いです。
下池はこれから紅葉も広がり、越冬のための白鳥達でにぎわいます。

編 集 後 記

ラグビーワールドカップは南アフリカの優勝で終わり、日本中に大きな感動の波がフィールド以外にも様々な形として広がりました。その一方で台風には人間が自然の前ではいかに無力であるかを思い知らされました。災害により多くの方が亡くなり、多くの悲しみをもたらしました。いち早く復興されることを祈っております。

医療を取り巻く環境では、「財政制度等審議会」が開かれ、財務省は増え続ける医療費を抑えるための方策を提案しております。医師の人件費等診療報酬の「本体」部分の引き下げや、新たに75歳になる人から病院等での窓口負担を2割にする見直しを求めました。今回、消費税が10%になり、保険点数は多少補填されましたが、それもあつというまに消え、経営は病院も開業医もさらに厳しくなりそうです。経営が成り立たなければ、適切な医療は提供できず、医師も経営手腕が問われそうです。


往診に行くと狸や雉や猿に会う事があります。栗鼠（リス）に会った事もあります。一昨年は医院の駐車場で、20年ぶりくらいに2匹の鮠（イタチ）を見かけました。今年の夏は家の中で蛍を発見しました。裏庭を流れる堰に離しに行ったら、彼方此方で蛍が瞬いておりました。この堰にはヤゴもおり、オニヤンマ等のトンボも育てております。当地はまだまだ自然が一杯なようです。世界中で国同士の対立は激しさを増しており、きな臭い、世知辛い世の中ですが、この平和が永遠に続けばと願わずにはおられません。

(佐久間 正幸)

編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>